

小学校における並行読書の効果

—並行読書を取り入れた授業の提案—

教科研究センター 小中学校教科研究課

笹山さやか 大野聖木 斉藤昌代 吉田恵梨

本稿では、小中学生にとって最も本を身近に感じることでできる教科である国語科の授業を通して、自ら進んで読書をし、読書を通して人生を豊かにしようとする態度を育てる手立てについて考察した。読書活動の一つである「並行読書」（単元の指導のねらいをよりよく実現するために、教科書教材と関連させて、本や文章を読むことを位置付ける指導上の工夫のこと）を取り入れた授業の実践とその効果について述べる。

〈キーワード〉 並行読書 福井県学力調査（SASA）

I はじめに

平成31年度全国学力・学習状況調査の結果から、福井県において平日に30分以上読書をする児童の割合は38.8%（全国30位）、生徒の割合は27.5%（全国29位）であり、読書をする時間が少ない傾向にあることが明らかになった。また、読書が好き（どちらかといえば好きも含む）と回答した児童の割合は72.6%（全国45位）、生徒の割合は69.3%（全国24位）であり、特に自主的に読書を楽しむ児童の割合が少ない傾向が見受けられる。福井県では、県内の読書を取り巻く状況の変化や課題に対応するため「第3次福井県子どもの読書活動推進計画」（令和2年3月）を策定した。本研究所においても小学校第5学年、中学校第2学年を対象に実施している福井県学力調査（以下、SASA）において、昨年度より読書活動に関する調査を行っている。平成31年度SASAの生活や学習、学級に関する調査（以下、質問紙調査）では、並行読書の実施率が高い学校は、平成31年度SASAの小学校国語調査問題の正答率も高いことが明らかになった。そこで、今年度は国語科と並行読書との関連を考え、授業に並行読書を取り入れることの手立てについて考察する。

II 研究の目標

小学校高学年を中心に並行読書を取り入れた国語科の授業提案をすることにより、並行読書が読書の習慣化を促すこと、および国語科の学習内容の定着にどのような効果があるかについて検証する。

III 研究の方法

1 平成31年度および令和2年度SASAの結果分析

令和2年度質問紙調査において並行読書の実施率が高かった小学校（70%以上の児童が実施していると回答した小学校）について、小学校国語の問題（文章全体の構成や展開、読解力をはかる問題等）の正答率と並行読書の取組みとの関連を考察する。また、SASA対象学年である第5学年担当の教師に調査を実施して並行読書の取組みの現状を把握し、児童と教師にとって効果のある取組み方を検証する。

2 指導案の作成と指導の実施

並行読書を授業に取り入れやすくするため、次の2点を重視した指導案を作成し、実践を依頼する。

- (1) 児童への手立て
 - ・並行読書の効果の実感を高める（読書の幅の広がり、学習内容の定着、深化）
 - ・選書や読書の負担を減らす（ブックトークの活用、読みの焦点化）
- (2) 教師への手立て
 - ・選書、本の用意、紹介の負担を減らす（図書館司書との連携）
 - ・カリキュラム・マネジメントの意識を高める（他単元や他教科との内容の関連）

IV 研究の内容

1 並行読書の実施率と SASA 小学校国語の正答率との関係

令和2年度質問紙調査において並行読書の実施率が高かった学校（全62校）について、小学校国語の問題の正答率と並行読書の取組みとの関連を調べて、結果を以下の表1にまとめた。

表1 令和2年度並行読書の実施率が高かった全62校の小学校国語の平均正答率

設問番号	問題の概要	平均正答率	県正答率	差
2(一)	文章全体の構成を捉えることができる。	87.3%	84.9%	+2.4
2(二)	構成や展開を意識した書き方について理解できる。	62.7%	56.7%	+6.0
3(一)	文脈から、用いられている言葉の意味を捉えることができる。	92.2%	88.5%	+3.7
3(一)	用いられている言葉の意味を捉えることができる。	97.9%	97.0%	+0.9
3(二) ウ	描写に着目して読み、登場人物の心情や人物の相互関係を捉えることができる。	91.7%	88.4%	+3.3
3(二) エ		81.4%	77.9%	+3.5
3(三)	主語と述語の関係を理解し、主語を捉えることができる。	65.3%	60.5%	+4.8
3(四)	人物像や物語の全体像を具体的に想像することができる。	91.5%	89.8%	+1.7
全問		79.2%	76.9%	+2.3

令和2年度 SASA においては、読むことに関する問題について全62校の平均正答率はすべて福井県の正答率を上回った。

福井県の課題として挙げた2(二)（文章の構成や展開の工夫）は6.0ポイント上回っていたことから、並行読書の活動が、文章の構成や展開を捉える力に関係する可能性があることがうかがえる。

2 教師への調査結果

平成31年度および令和2年度質問紙調査において並行読書の実施率が高かった学校のうち、国語の正答率が良好であった（福井県正答率より10ポイント以上高かった）55校の第5学年担当教師に対する調査を行った。調査内容は、①並行読書教材の集め方、②並行読書を取り入れるタイミング、③並行読書を取り入れた教材、④取組みの効果、⑤問題点である。以下はその結果である（すべて複数回答可とした）。

① 並行読書教材の集め方

図書室に教材関連図書がそろっている 学校の図書支援員に選書を依頼する	42
公共図書館・移動図書館を利用する	16
担任が購入する	3

② 並行読書を取り入れるタイミング

導入時	26
教科書教材と並行	6
教科書教材の学習後	18
教室に置いておく	8

③ 並行読書を取り入れた教材

すべての教材	5
なまえつけてよ (物語)	9
日常を十七音で (俳句)	2
古典の世界	3
カレーライス (物語)	12
からたちの花 (詩)	1
たずねびと (物語)	9
固有種が教えてくれること (説明文)	
グラフや表を用いて書こう	3
やなせたかし—アンパンマンの勇気 (伝記)	22
想像力のスイッチを入れよう (説明文)	2
大造じいさんとガン (物語)	6
その他 (他教科等関連)	4

④ 取組みの効果

教科書教材への関心が高まった	6
読書量が増えた	22
読書の幅が広がった	14
友だちと本を紹介し合うようになった	5
教科書教材の学びが深まった	6
わからない	2

⑤ 問題点

人数が多いため一人に1冊用意できない	7
文字が多い本に抵抗を感じる児童がいる	6
関心を示さず、本を選べない児童がいる	10
今は交流活動ができないため深まらない	5
選書の難しさを感じる	6
特に感じていない	15

調査結果から、並行読書への取組みの現状として以下のことがいえる。

- ① 並行読書教材の集め方について
 - ・学校の図書室が整備され、図書支援員との連携が取れている学校が多い。
 - ② 並行読書を取り入れるタイミングについて
 - ・教科書教材と同時に読み進める活動は、あまり行われていない。
 - ③ 並行読書を取り入れた教材について
 - ・物語や伝記の教材を中心に取り入れられている。
 - ④ 取組みの効果について
 - ・読書量は増え、読書の幅も広がったが、教科書教材での学びの深まりを感じている教師は少ない。
 - ⑤ 問題点について
 - ・大規模校では冊数が少ないため、児童一人に1冊が行き渡らない。
 - ・たくさんの本を用意しても、どの本を読めばいいのか分からない児童がいる。
- ④の結果から、並行読書を授業に効果的に取り入れる手立てを講じることとした。

3 並行読書を取り入れた授業の提案と実践例

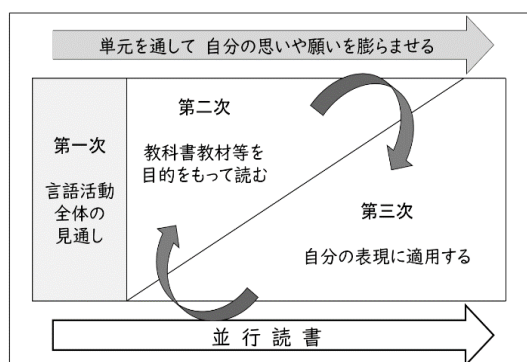


図1 言語活動を位置づけた単元構想モデル

教師への調査結果から、並行読書教材を同時に読み進めることによって教科書教材の学びを深められる授業づくりを提案することにした。

単元全体を通して並行読書を効果的に取り入れるために、図1の単元構想モデル(2013 水戸部)をもとに、教科書教材と並行読書教材を読む目的を明確にし、教科書教材での学びを活用して児童が自力で言語活動を行うことをねらいとした指導案を作成した。以下に実践を依頼した2校の事例を紹介する。

なお、児童が自分の選択した本に親しみをもちながら取り組めるように、実践においては並行読書教材をマイブックと表現した。

〈事例1〉 A小学校 第5学年 (28名)

伝記の特徴を捉え、文章の構成や事実と筆者の考えを意識しながら教科書教材と並行読書教材を読み進めることを中心とした実践の事例である。

- (1) 単元名 伝記を読み、自分の生き方について考えよう～「やなせたかしーアンパンマンの勇氣」～

(『国語 五 銀河』光村図書)

- (2) 言語活動 伝記を読んで考えた自分の生き方について伝え合う

- (3) 並行読書教材 学校図書館で児童が選択した伝記

- (4) 読書活動の様子

学級では本単元の授業の前に、道徳科で「なりたい自分」について考える時間をとった。教材文「ベートーベン」(『新しい道徳5』東京書籍)を読み、ベートーベンの生き方や、自分が「こうありたい」と思う生き方について考えを深めた。また、朝読書等の時間には複数冊の伝記を読み、読書カードに記録を続けた(図2)。

日	本の題名	興味深い部分	魅力度
11	「宮沢賢治」	p.66 L7	☆☆☆
16	「やなせたかし」	「そんな賢治も」	☆☆☆
	「ナイチンゲール」	p.55	☆☆☆
	「長谷川敏彦」	「くだらない」	☆☆☆

図2 読書記録カード

自分が興味深いと感じた部分を記し、魅力を星の数で表した。全員が3、4冊読んだ段階で本単元の学習に入り、読んだ伝記から並行読書教材として1冊選択した。

- (5) 単元について

第一次 全体を見通す

伝記の人物の生き方や考え方を自分と関わらせて読み、自分の生き方を考え、伝え合うことを知る。

第二次 教科書教材と並行読書教材を読む

伝記の表現、構成を知る。人物の生き方に共感したり、自分もこうありたいと考えたりしながら読む。

第三次 自分の生き方を考えてまとめる

自分が読んだ伝記について読み取ったことや自分自身と関わらせて考えたことをまとめる。

- (6) 主な学習内容とその時間に身に付けたい力

教材	次	時間	学習内容	身に付けたい力
やなせたかし 並行読書教材	一	1	伝記の特徴 ・出来事…説明的な描写 ・人物の思い…文学的な描写	伝記の全体を読み、構成を捉える。
	二	2	出来事と人物の考え方とのつながり	人物にとっての出来事の意味をおさえる。
		3	人物像 人物の生き方、考え方	叙述を基に人物像等を捉える。
	三	4	自分の生き方、考え方	人物に対する自分の考え、生き方をまとめる。
		5	自分の選んだ人物の紹介	交流を通して、自分の生き方をさらに考える。

- (7) 授業の実際

第一次 全体を見通す (第1時)

教科書教材の全文を読み、伝記の構成や特徴をおさえた。やなせたかしの人物像を捉え、単元を通して自分の生き方を見つめることと、最後に自分の考えたことを共有するという流れをつかんだ。カードを例示し(図3)マイブックとして選んだ伝記の人物の生き方のなかで、自分もこうありたいと思うところを「ぐっときたところ」として記入したカードを作成し、自分が考えた生き方を紹介し合い、さらに考えを深めるという単元の目標を確認した。教師は第5学年の「書くこと」の単元「この本、おすすめします」の指導事項を意識し、見出しや

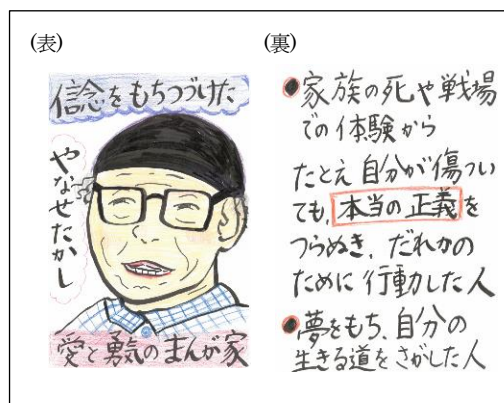


図3 第一次で例示した紹介カード

本の特徴、相手が読みたくなるような呼びかけの言葉を考えることも伝えた。

第二次 教科書教材と並行読書教材を、目的をもって読む（第2、3時）

伝記に描かれたやなせたかしの生き方を捉えるため、付箋を用いて教科書教材の内容を整理した。青色の付箋には出来事を、ピンク色の付箋には出来事に対するやなせたかしの行動や考えをまとめた（図4）。付箋を用いることにより、必要な情報を選んで短い言葉で書こうとする児童が多かった。また付箋の色を分けたことで、事実か筆者の

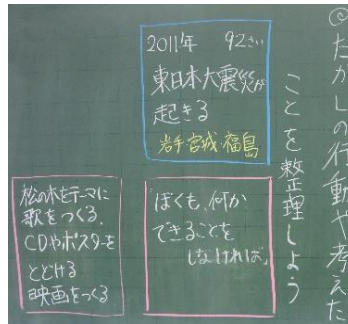


図4 第二次の板書

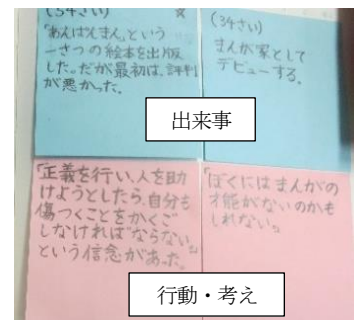


図5 第二次のノート

感想かを文末表現に着目して判断できていた（図5）。並行読書教材も同様に読み進め、教科書教材の学びを活用することができた。

教科書教材については、多くの出来事の中から、やなせたかしにとって最も大きな転機となった出来事だと思えるものを選び、選んだ理由と根拠となる叙述をグループで共有した（図6）。その後、出来事に対するやなせたかしの生き方や考え方で「ぐっときたところ」について考えた。それを3枚の緑色の付箋にまとめて（図7）一つ選び、全体で共有した（図8）。



図6 グループでの話し合い



図7 付箋にまとめる

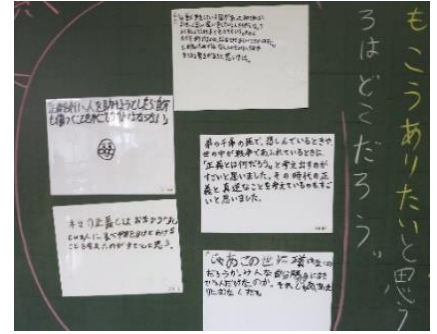


図8 全体で共有

第三次 自分の生き方を考えてまとめる（第4、5時）

児童は第2時から教科書教材と同様の読み方で並行読書教材を読んできた。第4時では、並行読書教材の人物に対して最も「ぐっときた」ところを再考し、紹介カードにまとめた。第5時ではペアで紹介の仕方をアドバイスし合い、4人グループでの交流を2回行った。紹介のあと、人物に関する質問や内容への感想などを伝え合った。質問に対して「ちょっとここ読んでみて」と言いながら、自分の心に残った部分を指し示して共有する姿があちこちのグループで見られた。また「この出来事について筆者はこんなことを書いていたよ」「この人物にとっていちばん大きな出来事はこれだと思う。これをきっかけに行動が変わったから」など、教科書教材の学習内容を活用した発言も聞かれた（図9）。



図9 第5時の伝え合い

授業後、並行読書教材となる図書をさらに提示した。福井市立図書館の司書に選書を依頼し、児童が読んできた並行読書教材とは異なる本を32冊用意し、一人1冊手に取ることができるようにした(図10)。絵本や写真集もあり、授業後には多くの児童が本を手にとっていった。



図10 並行読書教材

(8) 考察

実践の成果と課題を明らかにするために、単元終了後に児童に対して並行読書を取り入れた授業について以下の二つの項目でアンケート調査を行い、教師から話を聞いた。

① 授業後の児童アンケート結果(28名)

マイブックを読んだことは楽しかったか。

とても楽しかった	13
楽しかった	12
あまり楽しくなかった	3
楽しくなかった	0

これからも授業で並行読書をしたと思うか。

とても思う	12	あまり思わない	8
思う	5	思わない	3

「思う」理由

- ・ 普段読まない本を読むことができて楽しかったから。
- ・ 伝記を読むことで様々な人の生き方を知ったから。
- ・ 歴史が好きで、伝記から様々なことを学べたから。

「思わない」理由

- ・ 自分の好きな本(物語)を読みたいから。

② 教師からの聞き取り

〈効果があったと感じた点〉

- ・ 並行読書の取組みを続けることで、たくさんの情報の中から自分にとって最適な情報を選択する力が児童に付いてきている。
- ・ 情報の選択の仕方(本実践では「出来事」「人物の言動」「生き方」に焦点を当てて読むこと)を教材で身に付けると、それを生かして複数冊の本を読むことができる。
- ・ 「伝記」は描かれている分野が多岐にわたるため、今回の授業のように十分な量を用意できれば本を選ぶ楽しさを味わうことができる。「伝記」は並行読書に適しているのではないか。
- ・ 授業後に用意した32冊は、1か月で8割の児童が全冊を読み終えた。学級全体で読書に取り組む雰囲気ができ、伝記に関心をもつ児童が多くなったことがとてもよかった。

〈改善すべきであると感じた点〉

- ・ 今回は1か月以上の期間があったため、並行読書を負担に感じている児童がいたことがアンケートから分かった。並行読書を単元の前、途中、単元の後どのタイミングで取り入れるか、どの種類の本を用意するかは教材研究の一つであり、付きたい力や児童の実態に合わせてしっかり考えるべきだと感じる。
- ①、②の結果から、ほとんどの児童が楽しんで並行読書教材を読み、伝記に関心をもって学習に取り組んだことがうかがえる。ワークシートからは、児童が教科書教材の学びを生かして並行読書教材を読み、伝記の人物の行動や言葉に着目して考え方や生き方についての自分の考えをまとめていることが分かる(図11)。教師が明確な意図をもって並行読書を取り入れることが大切であるといえる。

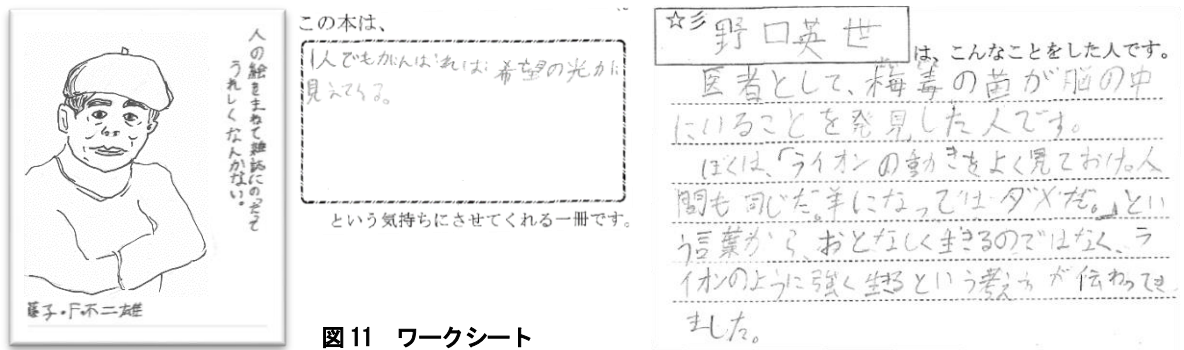


図11 ワークシート

③ 本学級の令和2年度SASA小学校国語の平均正答率と福井県正答率との比較

設問番号	問題の概要	差
2(一)	文章全体の構成を捉えることができる。	+11.5
2(二)	構成や展開を意識した書き方について理解できる。	+7.5
3(二)ウ	描写に着目して読み、登場人物の心情や人物の相互関係を捉えることができる。	+0.8
3(二)エ		-2.9
3(三)	主語と述語の関係を理解し、主語を捉えることができる。	+0.2
3(四)	人物像や物語の全体像を具体的に想像することができる。	+6.6
全問		+1.2

特に2(一)の正答率が高かったのは、並行読書の活動を授業に取り入れることによって、児童が文章の構成や事実と筆者の考えを意識できるようになったためであると考えられる。

〈事例2〉 B小学校 第6学年 (19名)

物語の魅力をつめて紹介し合うことを通して、児童の読みの深まりと読書意欲の向上、読書の幅の広がりをおねらいとした実践の事例である。

- (1) 単元名 読んで考えたことをもとに、おすすめの本を紹介し合おう～「カレーライス」～
(『国語 五 銀河』光村図書)
- (2) 言語活動 物語を読み、魅力を中心に紹介する
- (3) 並行読書教材 福井市立図書館の司書に選書を依頼して5冊ずつ用意した。
「あした、また学校で」 (5) 「トクベツな日」 (4)
「ふたり」 (1) 「となりのアブダラくん」 (2)
「バドミントンデイズ」 (4) 「なみき ビブリオバトル・ストーリー1」 (3)
()内の数字は選択した児童の数を示す。

(4) 読書活動の様子

B小校では、学校全体で読書活動を推進している。各学年の国語の教科書で紹介されている本はすべてそろっており、学級文庫は充実している。また、家庭や地域と連携した様々な取り組みが行われている。家庭で10分間本を読むごとに1マス色を塗る「家読マラソン」や(図12)、週末に読んだ本について「お話し読んだよカード」に感想をまとめる取り組みが続けられ、校内の至る所に掲示されている(図13)。また、全学年の児

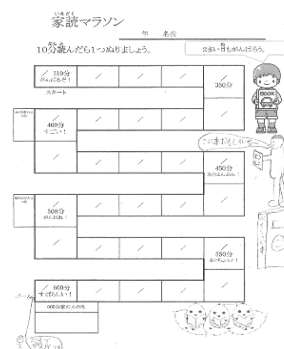


図12 家庭での取り組み



図13 児童の作品

童が参加する「本のポップコンテスト」や図書委員による読み聞かせ会など、委員会活動にも工夫が見られる。なお、本学級の平成31年度SASA質問紙の読書に関する項目についての結果は次の通りである(表2)。

表2 平成31年度SASA質問紙調査の結果 (16名) ()内の数字は選択した児童の数を示す。

読みたいと思う本が身の回りにあるか。	学校や家にある(11)	学校にある(4)	家にある(1)	ない(0)	
もっとも好きな本はどの種類か。	物語・小説(10)	自伝・エッセイ(2)	絵本(0)	図鑑(0)	伝記や古典(4)
6年生になって並行読書をしたことがあるか。	ある(7)	ない(9)			
最近1か月間に何冊くらい本を読んだか。	11冊以上(0)	7~10冊(2)	3~6冊(4)	1~2冊(9)	0冊(1)

この結果から、学校全体の読書環境は整っており、物語や小説の本を中心として読書に親しんでいる児童が多いことがうかがえる。しかし、教師によると、学級文庫を熱心に読む様子や物語をじっくり味わっている姿があまり見られないということであった。また、教師は児童が小学校を卒業する前に自分たちの読書の幅を広げてほしいという願いをもっていた。そこで、昨年度までの第6学年の教科書(『国語 六 創造』光村図書)に掲載されていた物語教材を用いて、並行読書を取り入れた授業を行うことにした。教師によるブックトーク(あるテーマに沿って複数の本の内容を紹介し、読書意欲を高める活動)を行い、児童はその中からマイブックを選んだ(図14)。



図14 並行読書教材を選ぶ様子

(5) 単元について

第一次 全体を見通す

登場人物の心情の変化に気をつけて読み、おすすめの本を紹介し合う活動を知ることを知る。

第二次 教科書教材、並行読書教材を読む

誰の視点で書かれているかに着目し、別の視点で物語を見直す。登場人物同士の関係を捉える。

第三次 物語の魅力をもとめる

自分が選んだ物語について、物語の魅力を中心に紹介し合う。

(6) 主な学習内容とその時間に身に付けたい力

教材	次	時間	学習内容	身に付けたい力
カ レ ー ラ イ ス 並 行 読 書 教 材	一	1	物語の魅力(共感、題名や象徴的な言葉、人物像、設定、出来事)	既習内容を生かして物語の全体を読み、大体を捉える。
	二	2	心情の変化、視点	人物の変化に着目し、心情を読み取る。
		3	物語の全体像、視点を変えた読み方	登場人物同士の関係の変化、出来事、もの、人の役割をつかむ。
	三	4	物語に対する自分の考えを表現	物語の内容と自分の知識、経験と結び付け、物語に対する自分の考えをまとめる。
		5	並行読書教材の魅力の紹介	交流を通して読み上げ方の観点を知り、自分の考えを広げる。

(7) 授業の実際

第一次 全体を見通す (第1時)

教科書教材を読む前に次の既習の学習用語を確認した。また、児童は本の選び方や読んだ後の活動など、自分の読書への取組み方を振り返った。

題名	あらすじ	設定	場面	出来事	構成	語り手
登場人物	人物像	心情	情景	山場	視点	会話文・地の文

6年教科書『国語 六 創造』(光村図書)より抜粋

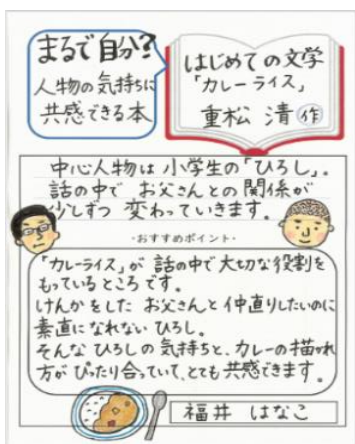


図15 例示したワークシート

物語の魅力をつめるためには何に注目して読めばよいか、魅力を伝えるためにはどのような表現の工夫が必要か、この2点を児童が意識できるように学習を進めた。児童は日頃からカードに感想を書く活動に取り組んでいるため、本を読んで自分の思いをもつことには慣れている。しかし、読み手として物語の概観を捉えて批判的に読んだり、読んだ本のことを伝え合ったりする経験はあまりない。そこで、児童が単元のねらいをつかみやすいように、人物同士の関係の変化や物語のキャッチコピーをまとめたワークシートを例示した(図15)。単元の終わりには並行読書教材の物語の魅力をおすすめのポイントとして伝え合うこととした。

第二次 教科書教材、並行読書教材を読む (第2、3時)

物語が誰の視点で書かれているかに着目し、別の視点で物語を見直すことを重点的に行った。児童からは「中心人物のひろしに共感できるが、お父さんの視点で読み直すとお父さんの気持ちもよく分かる」という感想も聞かれ、視点に着目することは登場人物に自分を重ね合わせる手段として有効であることがうかがえた。児童は場面ごとに読んでいくのではなく、物語全体を通して登場人物同士の関係がどのように変化していったかを捉えていった。関係を図で表し、変化のきっかけとなる出来事をつかんだ児童もいた(図16)。視点や人間関係に気を付けながら読む中で、二人の仲直りや、父がひろしの成長に気付くきっかけになったのが「カレーライス」であったことをしっかりと読み取っていた。児童はここで身に付けた読み方を生かし、並行読書教材を読み進めた。

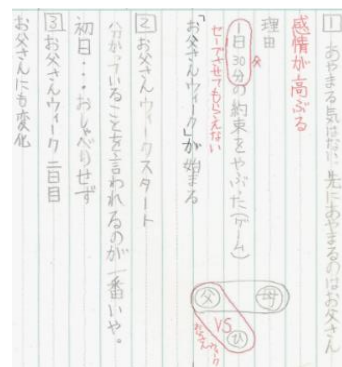


図16 ノート

第三次 物語の魅力をもとめる (第4、5時)

ここではグループ活動を2回取り入れた。はじめに同じ本を選んだグループで集まり、ワークシートをもとに自分が魅力だと感じたところを伝え合った(図17)。同じ本でも着目した部分は異なり、「なるほど。そこを紹介するのもいいね」「わたしはこの場面では〇〇のことを優しいと感じたけれど、ここの会話を読むとちがう感じ方もできるね」など、本を指し示しながら伝え合っていた。次に別の本を選んだグループで並行読書教材の魅力を紹介し

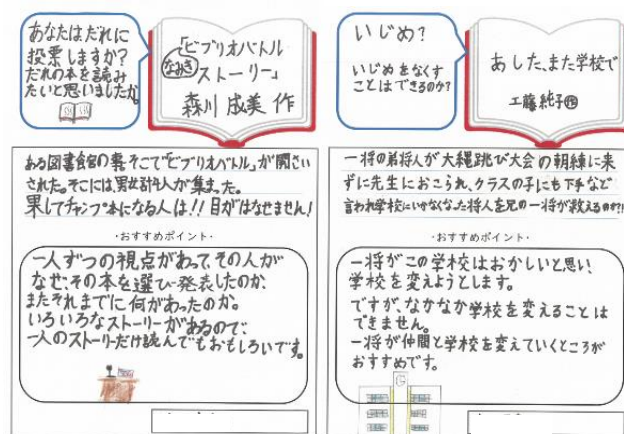


図17 ワークシート

合った(図18)。友だちの紹介のあと、自分の並行読書教材と比較して感想を伝え合う児童が多かった。最後に教科書教材と並行読書教材を読んだことについて感想を発表した。授業者が前述の既習の学習用語を意識して発問や指示をしたことにより、児童の発表のなかでも「視点」「人物像」「あらすじ」「会話文」「語り手」などの言葉が使われていた。

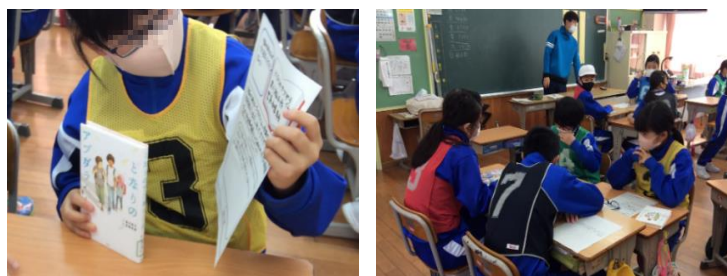


図18 グループでの伝え合い

(8) 考察

実践について成果と課題を明らかにするために、〈事例1〉のA校と同様に児童へのアンケート調査を行い、教師から話を聞いた。また、今回は自由記述による児童の感想も回収した。

① 授業後の児童アンケート結果(19名)

「マイブック」を読んだことは楽しかったか。

とても楽しかった	18
楽しかった	1
あまり楽しくなかった	0
楽しくなかった	0

これからも授業で並行読書をしたと思うか。

とても思う	16
思う	3
あまり思わない	0
思わない	0

「思う」理由

- ・自分と考えを比べることができたから。
- ・みんなの考えを聞くことができて楽しかったから。
- ・興味をもって本を読むことができたから。もっと読みたい。

② 児童の感想

- ・どの本も中心人物が小学生で、みんな悩みをもっていたのでどの人物にも共感できた。
- ・どれも「友情」をテーマにした物語だった。物語の結末が予想外の展開だった。
- ・「いじめ」が出てくるのは同じだが、解決方法がいろいろあって興味深い。
- ・登場人物にはそれぞれの視点があって、同じ出来事でも別の捉え方をしているのが面白い。友だちの読み方も自分と違うところがあった。
- ・教科書の物語は「カレーライス」が重要な役割をもっていて、自分が読んだ本では「たまごやき」だと分かった。それに気付いたのがうれしかった。これからも、役割のあるものや人に気を付けて読んでいきたい。

③ 教師からの聞き取り

〈効果があったと感じた点〉

- ・読むときのポイントを明確にしたことによってグループでの話し合い活動が活発になり、もう一度考え直したり、教材文を読み直したりすることができていた。
- ・本を選ぶ前に登場人物や簡単な内容を伝えたことが「読んでみたい」という意欲の向上につながった。自分で本を選ぶことができない児童もいるためブックトークには効果があると感じられた。
- ・児童が共感できる内容の本を数冊ずつ用意できたことがよかった。グループ活動を2回行ったことで、並行読書教材の魅力を再確認し、友だちの並行読書教材にも興味をもつことができた。
- ・共通の本について話す楽しさを感じていたようだ。授業をきっかけに、学級の本棚に並んでいる本にも目を向けるようになった。
- ・授業に並行読書を取り入れたことにより、学級全体に読書をする雰囲気が出た。ほとんどの児

童が並行読書教材として用意したすべての本を読み終えていた。

授業の1か月後に実施したSASA質問紙の読書に関する項目の調査結果からは、約7割の児童が1か月に3冊以上の本を読んでいることが分かる(表3)。昨年度の結果(表2)と比較しても、児童の読書量が増えていることは明らかである。

表3 令和2年度SASA質問紙調査の結果(19名) ()内の数字は選択した児童の数を示す。

読みたいと思う本が身の回りにあるか。	学校や家にある(17)	学校にある(1)	家にある(1)	ない(0)	
もっとも好きな本はどの種類か。	物語・小説(13)	自伝・エッセイ(0)	絵本(0)	図鑑(0)	伝記や古典(6)
最近1か月間に何冊くらい本を読んだか。	11冊以上(1)	7~10冊(4)	3~6冊(8)	1~2冊(6)	0冊(0)

また、①、②の回答から、児童には教科書教材の読み方を並行読書教材の読書に生かす意識があったことがうかがえる。授業ではから読み取ったことをもう一度教科書教材で確認する様子も見られた。教科書教材と並行読書教材を往復しながら学びを深められるのは、並行読書の効果であるといえる。物語を別の視点から読み直して全体像を捉えたり、物語の中で重要な役割を果たしている人やもの、出来事に気付きながら読んだりすることは、小学校の学習の集大成となる高学年でしっかりと身に付ける必要がある。

4 図書リストの作成

学校への調査や実践を依頼した教師からの聞き取りを通して、並行読書を実施するには教師が明確な意図をもって本を選ぶことが重要であると分かった。また、並行読書教材の選書や準備の負担を減らすことによって並行読書を取り入れた授業を実践しやすくなることがうかがえた。単元計画を立てたり学級文庫を整備したりする際に活用できる資料の必要性を感じたため、福井市立図書館司書の監修を受け、「おすすめの本リスト」を作成した(表4)。

表4 第5学年おすすめの本リスト(一部抜粋)

光村図書										
5年	かんがえるのって おもしろい			神を楽しもう	すき	谷川俊太郎	ともたち	谷川俊太郎		
	なまえつけてよ(p.17)	読む		登場人物どうしの関わりをとらえ、感想を伝え合おう	のろのろひつじとせかせかひつじ ホームランを打ったことのない君に	蜂飼 耳 長谷川 集平	うきわねこ 天のシーソー	蜂飼 耳 安東 みきえ	地下室からのふしぎな旅 12月の夏休み	柏葉 幸子 川端 裕人
	本は友達 図書館を使いこなそう(p.32)				ウマ大図鑑	日本ウマ科学会	生き物を育成する仕事	ヴィットインターナショナル企画室	絵で分かる馬の本	E=ボーン・M=R=ビモン・P=ライニッツ
	春の空(p.36)	理科		春らしいものや様子を、文章に書き表してみよう。	心をそだてる子ども歳時記12か月 枕草子 ピギナーズ・クラシックス	橋本裕之 角川書店 編集	言葉の歳時記 俳句歳時記第五版 春	權未知子 角川書店 編集	四季の図鑑 写真で見る俳句歳時記 春(2)	講談社 原 雅夫 長谷川 秀一

V おわりに

本研究では、小学校高学年を中心に「並行読書」を取り入れた授業提案をすることにより、児童に読書の習慣化が促されたか、国語科の学習内容の定着に関してどのような効果が見られたかについて検証してきた。

実践した学級では、主体的に読書に取り組む児童が増えた。図書館司書に選書を依頼したことで児童の実態や学習内容、発達段階に合った教材をそろえることができ、読書の面白さや楽しさに気付き、もっと読みたいという児童の意欲が高まった。前述の図書リストを活用することで、並行読書の目的を明確にもつことができ、教師の選書の負担も軽減されると考えられる。

また、授業を通して児童に付けたい力や並行読書教材を読む目的を明確にすることによって、教科書教材の学習で身に付けた力を活用して読もうとする児童の意識が高まった。目的をもって二つの教材を比較しながら読むことで新たな気付きも生まれ、交流活動も活発になり、児童が考えを深める様子が見られた。

SASAの結果からも、並行読書の活動を授業に取り入れることで、物語全体の構成や展開を把握する力を伸ばすことができることが明らかとなった。

以上のことから、授業に並行読書を取り入れることは、児童の読書活動の充実と単元のねらいの実現に十分な効果があると考えられる。

なお、今回の研究にあたり作成した指導案および並行読書教材の図書リストは、学習支援システムに掲載した。

《参考文献》

- 文部科学省 (2018) 『小学校学習指導要領 (平成29年告示)解説 国語編』
- 水戸部修治 (2013) 『「単元を貫く言語活動」授業づくり徹底解説』明治図書出版